

地域経済動向調査報告書

平成 30 年度 上半期

<平成 30 年 4 月から 9 月まで>

平成 30 年 12 月

調布市商工会

<要旨>

全体のDIの分析から読み取れる市内小規模事業者の上半期の状況は、前年同期比で売上高、採算面で全体として減少の傾向を示すなか、建設業での増加傾向と製造業、小売業、飲食業の減少傾向とに二極化していて、業種間のバラツキが大きい。前年度下半期との対比でも同様の傾向がみられる。仕入単価の上昇、件数・数量の減少傾向が続いており、採算の改善を厳しくしていることがうかがわれる。

今年度下半期の見通しとしては、前年同期比では客数、件数・数量の増による売上改善を見込む一方で、仕入単価の上昇により採算の効果が減殺される傾向を見込んでいる。上半期比では仕入単価の上昇にも歯止めがかかり、業種によるバラツキがあるものの、全体としては若干ながら採算改善の傾向が見込まれている。

資金繰り、借入れの面では目立った変化はない。

経営上の問題としては、事業採算面の問題に次いで人手不足に関する問題をあげる回答が上位を占める。複数回答で前者に関するものでは、「仕入（外注）単価の上昇」、「売上（取引）件数（個数）の減少」、「売上単価の低下・上昇難」の順に指摘されている。後者については、「従業員（含パート等）の確保難」、「熟練技術者（販売員）の確保難」があげられている。

なお、本報告書でのDI（景気動向指数）は、調査項目ごとに有効回答数を分母として、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示している。具体的な算出方法は次のとおり。

$$DI = \frac{\text{増加} - \text{減少}}{\text{増加} + \text{不変} + \text{減少}} \times 100$$

1. 調査の概要

本調査は、当商工会会員である小規模事業者の業種構成比率を基に抽出した市内の製造業 4 社、建設業 6 社、小売業 10 社、飲食業 14 社、サービス業 16 社の小規模事業者計 50 社に対し、経営指導員および巡回相談員を通じ別紙「中小企業景況調査票」への記入によって実施した地域経済の動向を調査したものである。本報告書は、上半期（平成 30 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで）の調査結果をまとめたものである。

2. 上半期の状況

上半期の状況を前年度同期（平成 29 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで）と前年度下半期（平成 29 年 10 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）との比較で調査した。また、一部の項目は上半期の水準についても調査した。

2.1. 売上高の動向

2.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～9 月比	△ 10.0	△ 25.0	33.3	△ 40.0	△ 14.3	0
H29. 10～H30. 3 月比	△ 12.0	0	33.3	△ 30.0	△ 28.6	△ 6.3

H29. 4～9 月比では全体として減少を示すなか、建設業のみが増加を示している。H29. 10～H30. 3 月比においても全体として減少しているなかで建設業のみが増加を示している一方、小売業、飲食業では依然厳しい傾向がみられる。

2.1.2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H29. 4～9 月比	2.0	△ 8.0	2.1
H29. 10～H30. 3 月比	△ 2.0	△ 10.0	△ 4.3

売上を構成する要因別にその動向をみると、H29. 4～9 月比では件数・客数の面で減少を示すものとなった。H29. 10～H30. 3 月比では、いずれの要素でも減少を示しているが、なかでも件数・客数面の影響が大きいものとなっている。

2.2. 仕入動向¹

	仕入単価
H29. 4～9 月比	△ 42.9
H29. 10～H30. 3 月比	△ 40.8

仕入単価の上昇（採算面では悪影響）を示す回答となった。H29. 4～9 月比と H29. 10～H30. 3 月比に大差なく、厳しい状況が継続しているものとみられる。

2.3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～9 月比	△ 4.0	△ 25.0	50.0	△ 30.0	△ 35.7	25.0
H29. 10～H30. 3 月比	△ 6.0	△ 25.0	16.7	△ 20.0	△ 35.7	25.0
H30. 4～9 月の水準 ²	2.2	0	33.3	△ 25.0	△ 30.8	31.3

H29. 4～9 月比では、全体として悪化の傾向を示すなか、建設業、サービス業での好転傾向と製造業、小売業、飲食業の悪化傾向とに二極化していて、業種間のバラツキが大きい。H29. 10～H30. 3 月比でも同様の傾向がみられる。H30. 4～9 月の採算の水準としては、業種により「黒字」と「赤字」の傾向が分かっている。

2.4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～9 月比	△ 10.0	0	0	△ 50.0	△ 21.4	18.8
H29. 10～H30. 3 月比	△ 6.0	0	16.7	△ 20.0	△ 35.7	18.8
H30. 4～9 月の水準 ³	△ 10.6	0	50.0	△ 22.2	△ 28.6	△ 12.5

H29. 4～9 月比で見ると、全体的に悪化を示すなかでサービス業のみが好転を示している。H29. 10～H30. 3 月比では、各業種で傾向が分かれるが、全体的には減少を示している。H30. 4～9 月の業況の水準については、良好を示す業種は建設業に限られ、地域経済全体は厳しい業況にあることが読み取れる。

1 採算への影響の面から正負を表記した（「3. 次下半期の見通し」においても同じ）。

2 「採算（営業利益）」における「H30. 4～9 月の水準」は、「黒字」と答えた事業者の割合から「赤字」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

3 「業況（自社）」における「H30. 4～9 月の水準」は、「良い」と答えた事業者の割合から「悪い」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。過去との比較を問うものではない。

H30. 4～9月の業況の傾向を総じて分析すれば、H29. 4～9月比では全体として減少の傾向を示すなか、建設業、サービス業での増加傾向と製造業、小売業、飲食業の減少傾向とに二極化していて、業種間のバラツキが大きい。H29. 10～H30. 3月との対比では建設業が好転したものの全体では同様の傾向がみられる。また、仕入単価の上昇傾向が続いていて採算面では依然厳しいことがうかがわれる。

2.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H29. 4～9月比	2.0	
H29. 10～H30. 3月比	△ 2.0	△ 2.1

資金繰り、借入難度については、いずれも目立った変化はみられない。

2.6. 人材

2.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～9月比	△ 8.5	0	△ 16.7	0	△ 7.7	△ 13.3
H29. 10～H30. 3月比	△ 12.8	0	△ 16.7	0	△ 23.1	△ 13.3
H30. 4～9月の水準 ⁴	△ 27.9	0	△ 66.7	△ 25.0	△ 25.0	△ 20.0

全体的に減少の傾向にあり、H29. 4～9月比、H29. 10～H30. 3月比いずれも建設業、飲食業、サービス業で厳しい状況となっている。従業員の充足に関するH30. 4～9月の水準では製造業を除く他の業種で人手不足を強く示す結果となっている。

2.6.2. 外部人材（請負・派遣）

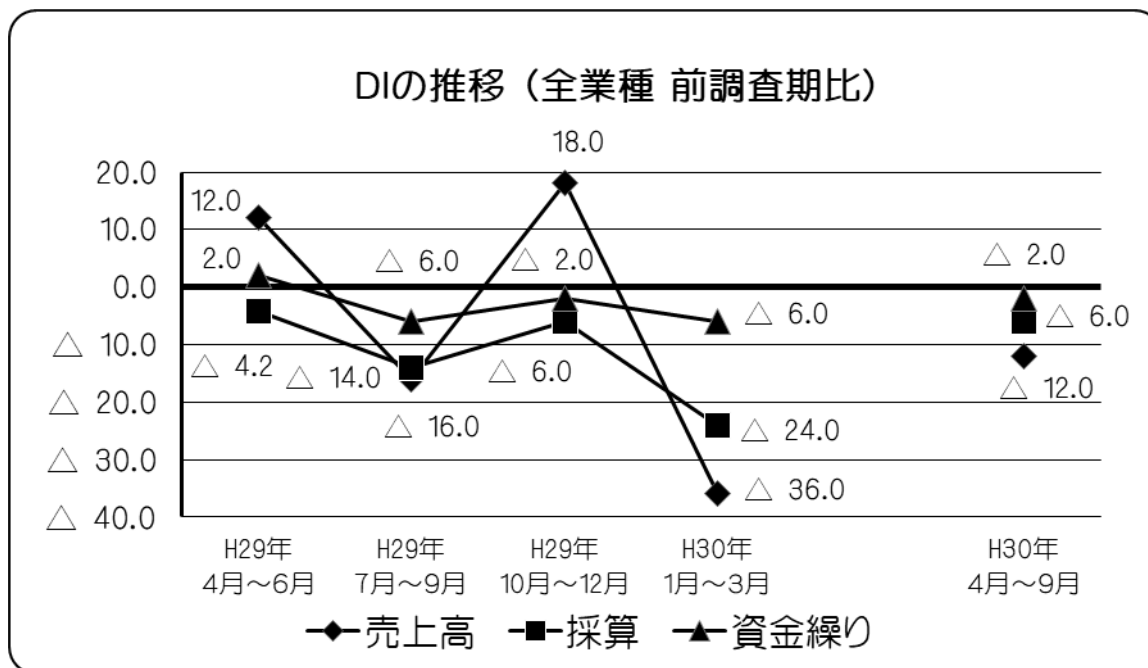
	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 4～9月比	△ 9.4	0	△ 16.7	0	0	△ 18.2
H29. 10～H30. 3月比	△ 6.3	0	△ 16.7	0	0	△ 9.1

全体では目立った変化はみられないものの、建設業、サービス業で減少を示している。

4「従業員（含む 臨時・パート）」における「H30. 4～9月の水準」は、「過剰」と答えた事業者の割合から「不足」と答えた事業者の割合を差し引いたもの。

2.7. 推移

全体のDI（売上高、採算、資金繰り）の推移は次のとおりである。なお、四半期ごとに調査した平成29年度の結果とは前提が異なることに留意されたい。



3. 今年度下半期の見通し

今年度下半期（平成30年10月1日から平成31年3月31日まで）の見通しを前年度同期（平成29年10月1日から平成30年3月31日まで）と今年度上半期との比較で調査した。

3.1. 売上高の見通し

3.1.1. 売上高

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.10～H30.3月比	2.0	△ 25.0	16.7	0	0	6.3
H30.4～9月比	22.0	△ 25.0	33.3	40.0	28.6	12.5

H29.10～H30.3月比で製造業は減少を見込むなか、建設業、サービス業での売上増が見込まれている。また、H30.4～9月比では、製造業が減少を見込む以外は建設業、小売業を中心に増加を見込む回答が多い。

3. 1. 2. 売上単価・客単価、売上件数・客数、売上数量

	売上単価・客単価	売上件数・客数	売上数量
H29. 10～H30. 3 月比	10. 2	16. 0	12. 8
H30. 4～9 月比	8. 2	22. 0	17. 0

今後の売上増の要因として、H29. 10～H30. 3 月比では売上件数・客数増が見込まれている。H30. 4～9 月比では売上件数・客数増の影響に加え売上数量増も見込まれている。

3. 2. 仕入の見通し

	仕入単価
H29. 10～H30. 3 月比	△ 30. 6
H30. 4～9 月比	△ 18. 4

H29. 10～H30. 3 月比では仕入単価の上昇を見込む回答が多いものの、H30. 4～9 月比ではその回答が減少しており、減少に歯止めがかかるものと見込まれている。

3. 3. 採算（営業利益）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3 月比	△ 4. 0	△ 25. 0	16. 7	10. 0	△ 35. 7	12. 5
H30. 4～9 月比	8. 0	△ 25. 0	33. 3	20. 0	0	6. 3

H29. 10～H30. 3 月比では、製造業、飲食業が減少を見込む一方で、建設業、小売業、サービス業では好転を見込んでいて、業種間のバラツキが際立っている。H30. 4～9 月比では、消極的な見通しを示すのは製造業のみで、全体としては増加を見込んでいる。

3. 4. 業況（自社）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29. 10～H30. 3 月比	0	0	0	10. 0	△ 21. 4	12. 5
H30. 4～9 月比	6. 0	0	16. 7	0	7. 1	6. 3

全体的には若干の好転が見込まれており、H30. 4～9 月比では悪化を見込む業種がない。

H30. 10～H31. 3 月の見通しを総じて分析すれば、H29. 10～H30. 3 月比では件数・客数増による売上増加を見込む一方で、仕入単価の上昇によりその効果が減殺される傾向を見込んでいる。H30. 4～9 月比では仕入単価の上昇にも歯止め

がかかり、業種によるバラツキはあるものの、若干ながら採算好転の傾向が見込まれている。

3.5. 資金繰り、借入難度

	資金繰り	借入難度
H29.10～H30.3月比	0	
H30.4～9月比	△ 6.0	0

資金繰り、借入難度については、いずれも目立った変化はみられない。

3.6. 人材

3.6.1. 従業員（含む 臨時・パート）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.10～H30.3月比	△ 6.4	0	0	0	△ 7.7	△ 13.3
H30.4～9月比	0	0	16.7	0	0	△ 6.7

全体としては特に目立った傾向は読み取れないが、サービス業で人手不足の傾向が続くものとみられる。

3.6.2. 外部人材（請負・派遣）

	全体	製造業	建設業	小売業	飲食業	サービス業
H29.10～H30.3月比	△ 3.1	0	△ 16.7	0	0	0
H30.4～9月比	0	0	0	0	0	0

全体としては特に目立った傾向は読み取れない。

4. 設備投資

設備投資の動向について、今年度上半期の実績と下半期の計画を調査した。

	実施 ／計画 して いない	実施した / 計画している					
		土地	建物 店舗	機械 設備 備品	車両 ・運 搬具	付帯 施設	IT 機器
H30.4～9月実績	64%	-	8%	6%	10%	2%	4%
H30.10～H31.3月 計画	72%	2%	6%	4%	2%	-	8%

設備投資については H30.4～9 月の実績で約 6 割、H30.10～H31.3 月の計画では約 7 割の事業所が実施も計画もしていない。H30.4～9 月の実績では車両・運

搬具（10%）、建物店舗（8%）が、H30.10～H31.3月の計画ではIT機器への投資（8%）が特筆される。

5. 経営上の問題点

上半期に直面している経営上の問題点（重要度の高い順に3つ以内）を調査した。

内 容 ⁵	1位の問題点	1位～3位の問題点
売上（取引）件数（個数）の減少	14%	30%
新規参入業者の増加	10%	14%
仕入（外注）単価の上昇	10%	32%
従業員（含パート等）の確保難	10%	24%
熟練技術者（販売員）の確保難	10%	24%
売上単価の低下・上昇難	8%	30%
人件費の増加	6%	16%
需要の停滞	6%	24%

事業採算面の問題に次いで人手不足に関する問題をあげる回答が上位を占める。「1位～3位」の回答で前者に関するものでは、「仕入（外注）単価の上昇」、「売上（取引）件数（個数）の減少」、「売上単価の低下・上昇難」の順に指摘されている。後者については、「従業員（含パート等）の確保難」、「熟練技術者（販売員）の確保難」があげられている。なお、金融面をあげる回答は少なく資金調達の面では大きな問題となっていないことがうかがわれる。

以上

⁵「1位」、「1位～3位」のそれぞれ上位5位までの選択肢が含まれるように抽出し、「1位～3位」での上位のものから順に記載した。